ヲ 1
3816

新川淵谷平兵衛佛田村

浚明亮采

樓霞生

西村兼文著

開化の本初編

目録

○王政復古の辨
○自主自立の權の辨
○光陰の價ハ高下あり辨
○耐久の功勞ハ大業を起す辨
○學者の僻ハ除きがたし辨
○人民ハ等倫卑の別なき辨

門 ヲ1
號 3816
卷

○夫妻の道ハ正しくまぐれ辨
○文明の小國ハ未開の大國を管する辨
○文明ハ夷俗を開化する辨
○讀書ハ目的を定むべき辨
○開化ハ進まざれば恥辱を受る辨
○教法の辨

以上十二條

早稲田大學圖書館
昭30.12.12 受
藏書

西村兼文著 開化の本初編

○王政復古之辨

日本國むかしは一國のごとくなりしを大政ハしだいに朝廷より授けいで、天皇若樓を宸殿に列王政をとりハ此時事なきを世すでに久し。國郡の大小名ハ和わしものにて京師より六十四ヶ國へ國司をつかはもの代遣さるるを受領と云ふ。國の守ハ称して任國四年。またハ五六年を限りて都ハ帰りて又ほかの代りを國の守

ふ任じて先づ前の國守を前司と名付く代はるゝふ
任じて一國の政務を司どり朝廷へ年の貢物を納め役
の頭を理り方今の府縣の知事令のごとく執り守の
下に分掌目と云ふ役あり是今の參事大中少屬也
始て一國の事を領る事又一郡を司る役を郡司
と云ふ國司の下に分て郡毎に分て支配を為る此頭を
大領と云ふ別總區長區長ハ此類を理又別ふ軍團を
置もの有て是ハ追討征罰を司ぢ軍役あて即今の

六管鎮臺ふ同じ惣て國々ハ農兵を理今の徴兵
なるものを理中頃藤原氏外戚の威を專ゝて政を
紊乱し王德を擯し國ふ我侭を行ふもの出来り將門純
友忠常貞任等の類ひ王命を用ひざるを征伐ふ
されしかば刈貞盛秀郷頼義義家等を國を治わ子
孫おのづから國主のごとくなれり國々ハ縉紳の大名
なるものなれど官位なるを元人と称し官位卑しき
もの地下と云ひて極しく是蔑如されば天に王堵

ものうけたまはるに疎なり。故に王臣たらん事を願ひ、
折節武臣の名家棟梁を取なる人おもむき随従して
主君となるべき王者の武臣に威を掠奪らるる根本
なり。もし公家武家と差別をなしひごとにて古代に
なき事なり。藤原氏の奢移暴威より出来りたり。
後平清盛武功に乗じ身を興し上皇の政勢の乱
に乗じ外祖の親しみをもつて権威を恣にし次ぎ
源頼朝は天下兵馬の権を分掌せり。王家の衰へ甚だ

しかりしを、後鳥羽天皇ふたたびに復さんと謀りたまひ、
承久の乱を出来り却て北条氏陪臣より国命を執ふ
なりて朝廷の衰微をかなしみたまふ。後醍醐天皇
英主おはしまし、楠正成源義貞等忠勤を尽し一旦
天下朝家に帰したまいしを毎姦臣政を乱し賞罰正
しからざるに、天下の武士武家の徳を慕ひ絶三年に
して尊氏の謀逆に随ふもの多く朝廷はたゞ虚器を
擁せらるるのみ。遂に天下は全く武家の有となり。

足利十二代二百三十八年ハ〆テ。織田信長勃興シ。
天子ヲ挾ミ天下ニ令セントヲ謀リシニ。中途ハ於テ殺セ
ラレ。豊臣秀吉ヲ故智ヲ用ヒ。關白ハ昇リ天下ノ
權ヲ恣ハ〆ニ。凡十五年。德川家康三州ヨリ
興リ。秀頼ヲ大阪ハ亡滅シ。覇府ヲ江戸ハ開闢シ。
十四代二百三十七年權勢ヲ掌握セシガ。慶應三年
十一月人情時ハ変リ。天下ノ大政古ハ復シ。封建ノ制
改革テ郡縣ハ帰リ。七百年ノ陋習ヲ悉ク除ク。

朝廷ノ法例ハ新古不按ハ〆テ。取捨ハ其時勢ハ應セ
ラレ。今ノ二官六省ヲ置ヒ毎。ヒトヲ以ハ〆ヲ遣ヒ以ハ〆
事務ヲ。今日ノ政ハ例ハ〆ノ政ヲ手ヲ紀

○自主自立ノ權ノ辨

自主自立ノ權ヲ以ハ近ク自由自立ヲ尊ビ。人ノ
妨ヲ絶ヲ。各安逸ハ此世ヲ渡リ是ヲ尊ブ
振ヒ。怠ル者ハ品ヲ高ク法例ヲ立テ。第高自由
ヲ。既ハ九州邊ノ地ヲ國ニ國禁ヲ。人ノ出

入ること容易かるべからずして商賈の道ふ拓てなく、都會の地ふ諸株を厳ふたて人の志願を妨げ法を設きて人を束縛を自由を得ざ体の一をいとべ人民の尊卑を區別をはしく甚しくもて農高の上ふ士族士に足軽歩士給人馬廻中小性近習用人番頭家老等の班く數十の秩階を設を御家人籠本諸侯の席別數ることに耐へざるもて恣に權柄をもて農商をとり扱ふに犬馬のごと驅役せり体武士に切捨

法発令の不法多し実に言ふべき事に有ること、今や此悪習ハ除去れ、若民同一の大平化ふ帰し、若商一のさるなげなく、義士族平民とも縁組を免れ、平民ハ乗馬をゆるし、樵夫ハ平民ともなされ、ハ有りがたきに非ず、日本國中ハさて亜全世東蕃葉舟車の及ぶ限り自由自在なるべ。斯る文明の世に際し、父母の遺物として受きたる体もの歟又ハ自己の働きに因り体もの紅の所有の權をもて

自由自主ハ獨立ヲ礼し、財産を富殖し、交易の有無を
通じ、此大御國をして強國たらしめ、上下民をして富を保
たしむるハ、自主の權の大なるもの歟、蓋し此自主自立の
權ハ年少の人ハ固ゆ己れ已まづして等の立ざるを
以て、又他人の世話ハ活手を為すものにて自
由をなざるに因り、此權決して奪ふべからず、斯いへど
も腕力をもつて等級を極る相撲取のごとくなるも
礼、自主自立の權の要ハ已を獨り此

權を我物ハ高ぶらず、同じく天地の間ハ息し、同じく
地位ハ居し、上の保護をもつて相親育すらハ、我人
もこれハ同心協力を及ざるを補佐し、足らざるハ會社
を結び、其資助を請て一切交際の自由をなべて人各
職業を勉勵し、富強ハ求めずして自主自立の權
ハ自然所有を徳し、蠢愚なる奥蝦夷のごとき國ハ
其人民のごとく、年少にして第人なるハ、世分別
ものなれバ、自主自立の權なるべき事なるべき様に

凡そ人生まれて獨り立ぶべきの理なり。各國の風俗情形を察し、智力を增加し、財本に勉励して自主自立の權を大ふ

なるべし

○光陰の價ふ高下ある辨

凡そ光陰の價ふ貴ふべき卑しきあるハ早竟ハ働きの強弱と第事に急惰の違ひあるにて、一藝ふ勝れんと志すものハ其學ひ習ひの功を朝ふ昼よ夜に絶えて他念なく工夫を用ふるなり。古人の曰、凡そ人勉強して光陰を造るべし。光陰化して黄金となる。人光陰の價の貴ふべきを能く知ればなり。自然事を作すに敏く速なるべしと。光陰ハ人の商賣の大本にて此商賣の大本ふハ手を入るべきれバ價を生ずべし。夫をもて荒撫ふ任せしゑバ生ずべきところの物ハ殊よりさまざまの惡木毒草の類ひのみ多し。然るに又光陰を空しく過さばるべしハ損害を防ぐの道なるにて、光陰を忽緒ふせざるものハ、事務を疎畧ふせざるの證なり。事務を疎畧ふせざるもの

大切の事をもつて見に附與せざるべからず。大切を附與せざるときは、其光陰は極貴ふべき價を生ずべし。光陰は人を待たずして消滅するものなり。人若光陰を惜まざる職事を勤めざるときは、萬事に業常にむなくれて及ぶべからず。遂に一生成就する所なくして終はつて蓋し光陰は人に屬して然も人生と同じく已に過ぎたるものは再度呼返すべからざるものなり。英人若克孫は世上の宝貨は空しく耗散するといへども能く後日の儉約に因りて見を償ふべし。然もまた毎誰かよく今日失ふところの光陰を明日取るものならんやといへり。人毎日一小時の間緊要なる事を止め去らば、是は利益は体樣に用ひれば尋常普通の人といへども必ず一大事業を起し、其光陰は極大なる価を成べし。然も勉強して十年の功を積むに到らば愚昧の人も化して聰明の人と成べし。人若し光陰を懶惰にして空しく閑に過ごすべし。利益を求めず体のみを損害を受け妄想の門ひらけ惡魔を誘ふの鬼其心に入る。方寸の田地忽ち惡魔の居所となる

妄想の門を
惡魔城
迎ひる圖

豈怨しかんや。只光陰をして價をあがらしむるのみなり。
心神忙乱して家を破り身を亡ぼすに至る。然るに西洋航海を
怖の船中に諺あり。若人閑暇なれば不平の語を發し必ず
人を怨み謗る。船中為すべき所の事なきを以て鐵錨を磨け
と。実に確言なり。光陰を人力を費し鐵錨を磨ぐが如し。
更に益なし。怠惰にして毋閑暇なるを不可と記せし勝も
う然るに商賣大本の光陰を以て工夫を積み非常の功
を半ばなしたる好書を著して芸数の恩恵を後人に貽す

一秒の光陰も空しくつゝり其價を卑しく為すこと
なかれ

○耐久の功勢は大業を起すの辨

凡そ廣大の事業を成すに奇術妙法なるに非らず。唯英
才妙智を要とせず。平常の工夫よりして始めて又尋
常なる性質の人にして為し得る所なり。能く心を用ゆる大事
業明の益を知ること久しく功を積み久しく耐ること。
何事にても半途の地位に到るべからず。卓越の才なくと

いくとも心を用ひ苦功を積み久しく堪へ忍ばれば一事をも半
銭を惜しむ能はざる英才といひて別に一種の才あるにあらず
人の憤發に切至せざるものを英才といふ英才の發出し
て極大の功績を仕遂ぐるにあらず西洋の各國に多し又勤勉
要畧の三條に出づる勤勉耐久の力は窮もなきの理を
く成さざるべからざる事なれども既に地球の廣大
なること凡そ二億四千四百八十六萬七千余里なり今
假に徑過せんに蒸氣車のごとき最も速なるものは一小時に

して大概十八里を走るなり然れども算するに一千五百
二十四年有余を費さんに非ざれば初めて地球の軌道を週
遍するに能はざるなり然りとは雖も英才の發明
考窮するは偶然にして成るものにあらず甲人の發明し
て心志を勞し乙人継ひて試驗を積み丙人陸續學習
して絶えざるより此廣大の事業を為すなり又蒸氣
器械の發明創造は近世の事なれども是を作らんと
欲ひ記せし人は數百年前よりして既にあらざるなり

一人一世の間に事業をなしたる者人の勉強勞苦
して成る所の物を後人に繼ぎ工夫を下し訓のしるべ
を順序をなす數世の久しきを亞米利加人瓦德
その出て更に工夫を凝し許多の星霜を經て今より
七十年前初て全備かつまり又英人加利列窩ハ五十
年の勞苦學習を經て搖錘を初めて製作し時刻
を測り天文を筭ふ法の必用の器その厚倍ハ八年の
月日をもつて血の運行する事を發明考覆し二十五

年の後遂に説明白確然たり日納爾ハ牛痘を種
疱瘡を防ぐを發明ハ二十年の習經驗の功を積
んで定説なり斯密世ハ有名の地學家にして七年
の勞苦をもつて地圖を著し世界地學の法則を
立ること非常の功績ハ殊に勉強耐久に依る
ちふ事にして一朝一夕の工夫にあらず各國開化の國
程に年久しく新器械に勞苦をわさはれる事

○學者の僻ハ除て幾辨

今や日々文明の域に進み、百事悉く挙げ、贅ざ[illegible]費を省かるゝに、人民挙りて開化の業を称せざるなし。蓋し是を和以ての中に、漢学者の悪癖なるや、経傳史書等の過去り事迹を調るまでに、文字を解せんと、許多の労を費し、空しく光陰を送るの憂ひ少からざるに、譬へば論孟学庸詩経書経春秋礼記等の九経と称する体の字数通計四十八万四千九十五字なり。日ふ三百字を誦れども凡そ

四年半の光陰を減ずるに然もなほ他邦に渉りて、我国歴代の荒増をも知ること、又支那の九経終りても通用の書簡及び假名本も讀むもの多く、是は早竟記臆の力をも計らずして、多くの貧るの悪習なり。又古の皇帝者とゝなるものは、勿論太古の質朴なる風俗を慕ひ、今の世を謗り怨むものなれば、是学者の悪癖なる所以なり。抑時勢風俗の移り替り、今日の姿ふ[illegible]びなるは、独り我日本のみならず、各国とも然り。後

世わと追く文明開化となり、百工技藝利用厚生の術次第に進むハ茫國自然の理ハ歴史の上ハ明らかなれハ、もう〳〵蒙昧の世の風俗ハ運び難さハ別天然の道理ハ只今ハ都下ハ田舎の風俗を見ても瞭然なる事なり、然るに愛ハ眼を着ケ、半ば太古を慕ひ、或ハ漢癖を嘗つ事勢ハ捨取ざるの教育をなし、何事ぞや、いろはの字數を知りハ利屈を言張り、身を学大ふろまく様ハ学者ハ非ず学問ハ何ぞも研究して職業を能く勉るをもつて学問なるべ学日の事を知りて目前のことをハ僻学者なるべし。

凡そ讀書をなすハ教訓なりて何事ハも益なり利。矣理なるハ目的なり、学易の徑路をたてもつて利達の階梯なり、知見を生徒ハひろめしめ、元来学問ハ邦家ハ大利益なるものなれハ軍士の戰場ハ死傷を避けずハ、わく身命を委ねる吾國の為なるハ此事なんぞハ勢ひハ當り。

まことに開くるに尽力をなさば、魔鬼の會堂は変じて知見の舎社に移り、古事の庫蔵飲を喰ふの字引すら誘うを免るまじ。惡僻反覆して庸人百倍の多價をなもつて文明の日新に適せんこと何を難かんや

○人民は尊卑の別ある辨

元そ人の血統盡く皆太古より発源を發出し、或は譜系傳ありて、そを知るべきものの多し。蓋し天地の一氣より流れ出でさるものなし。然もふ人に

定まりたる貴賤尊卑の種別ありて理りなる中に稀多の一種ありて從ふるもを卑しもの甚だしはは。其職業のふらばかと。其源の他國より帰化せしと伝安のるるなるなる。然るに近く蒙國の交際日く繁んに及ひしにより、遂に昨辛未の秋。其名称を廃せしに、抑稀多は何もの時ぞ起原せしを知る人更になるなるべし。富家語談は久安年間の語録なるに、燕の太子丹三千人の臣下を率ひて本朝に帰化せしを。丹波國に住しを給ひしに初り。

天地の秤ふんそん
かけて人民を
上下の別をきす圖

稚多ハ燕丹の訛りなりしかい。又水戸の儒安藤為章の年山記聞ふハ鷹の餌取の誤音なりしと。其名称斯く分明なるに。外近く夷俘考の一紙。国史ふ因つて推窮し。真類穢種の陋見を除き拂ハ志を全うしたり。今やこゝを以て平民ふ伍し。忽開化の良民となるふ到る文明の大恵といふべし。華族平民と婚姻を免されたるに。猶是を卑しむの悪習。各地ともに存せり。其私情ふ於ては。同じく天地の間ふ立て情合同じく人民なるに。貴族なりとて恃むふ足らず。卑賤の人時ふ顕達し。新しきものハ舊きに代る。人世の盛衰ハ常なり。西洋の各國ふハ屠者の立身せし多くして。文明開化の第一等ハ貧賤をして富有ならしめ。卑しきを貴しとなしよりて。巧ふ是を利するハ其人の勉強工夫ふ在り。ふ於て英の今日大強國ふ到りしも。貧賤の人の器械を發明し。其國を利せしより起れり。

○夫妻の道ハ正しくあるべき

東京の日々新聞を見るに、奸夫密婦の多き驚くに絶ゆるなり。是朝の朋友夕の夫婦と多く今日の夫妻ハ明日の他人と第り家を設くるが如く活計の財本をたゞしく妻をむこへ引越し客分づらを貪ぼるなどの數称あるに、浮薄の形情を漫りなる事いふに方なし。こゝを合ふ事の容易なれバ離ぶ〻事のまた容易みて律を犯すの多く所以なり。是夫妻のうち我日本の下紐程正しゝものなきハ。媒酌ありて大猫の如く

野合をゝの〻少〻の憤怒に因てハ野蛮の等しく激声を發げ甚だ到りてハ惨刻を打擲を及び天理人道をも悖戻ぶ〻婚姻の道下賤ゝ厳を為し度事に既を西洋各國にて妻を娶ぶを男子ハ十七八にて以上ゝ我思ふ〻ゝの婦人あまこバ。を娘の父母ゝ入ま兼知ハ直ちに呼縁を結び相互ひを往通ひする事三五年。彼是の賢愚を察し男女ともに弥夫婦を成らんと思つバ。佳期を定め娶るの日ゝ

堂上ふかくして、男女手を握るを式とす。此時一人の官
員立合ひて、両人の素生を正し、両人の姓名を公ふて称
然して終身を共ふすべきの理、男子ハ二十二才、女子ハ十
八才に到らざれハ交通の乱を免さざるの理、養子を貰ふ
ふも妻を娶ふの法式と同じ。他りの時ハ夫婦手を
曳もて、市中を往来すべきの理、夫たるものハ其妻を
撫恤するの深切、各國ともに皆同じ。夫妻相互ひふ
勢むるの事理ハ、互ひふ貞実ふして相助け相親み相

信ぜんを勉つて、夫ハ身体壮剛ふして志力
強く、見聞博く知識多くして、妻婦を保護し、且家子
を治むるに其婦を佐くべきの理、非を触く教誨を垂て
警戒を加へ、もつて善を行ふ勉むべし。婦ハ身体志力固
ふ微弱ふして、見聞知識も少く、狭隘ものの形り。故ふ夫
ふ夫の訓誨ふ信従して和順すべし。中世より我国國婚
姻の道、ふたもつ結納或ハ輿入の節、其分限不相應なる虚
飾を、贅ぜふ金銭を費ふの悪習ふり。先開化の害

ものゝ外。除こぞんじうべきなり

○文明の小國は未開の大國を管する辨

我日本は全國の人口大凡三千五百萬に過ぎず。印度の國たるや廣大なれども。人口は一億七千八百六十三萬なり。米穀生絹木綿砂糖油を外草木禽獸より金石珠玉に富み。いふゝ世界第一と称せられ殷盛極の土地なるに近く英國の管轄をうけ自主自立の權なしは何事ぞや人民開化の場に次第

貧困に迫り國勢振るはざるに由来を委詳にせば。釈迦の佛教は先だつ千余年婆羅門の教化世に盛んに行はれ一般の疾病となりて政治教化に人民の知覚を消滅せしむるに因る甚衰ふるや文學を好み梵字をもつて書したる許多の深遠高妙なる書にて。學者皆是を習い講ずるとはいえども国人一般は佛を信じ種々の偶像を作りて是を崇ふ。因果冥福變生等の空理に惑い溺るゝ殊に

甚しく、好うて靈地靈山等を頂拜し、自ら身体を艱苦せしめ、食を断ち、痛く苦しび、或ハ自佛像を載たる車の下に、かも死し、又ハ女子をもつて犧牲とし、らもを川中に投じて鰐魚の食ふ所となし、冥福を禱る等の如き、残忍のなすこと、ハ素、又夫の病死すれハ妻自火中に投じて生るゝ焚死を常とし、国俗いふ事甚厳ふして、人民を四種ふ家柄を區別する事甚厳ふして、人民を四種ふかつ、第一ふ婆羅門とて僧あり、第二を利帝利とて

六名武士の類ひを殊ふ貴とぶ、第三を吠舎とて良ち商人あり、第四を戍達羅とて農民等、是を卑賤の者として婚姻をなし、免さず、若し區別を犯す時ハ重く所置ふれを且貴族ハ平人と席を同ふして言葉を交ることを欲せず、自ら大ふして平人を視ること恰も異類の如くなる愚なる体を固より論をまつ、国勢大いに衰頽して遂に英國の属國となる体ふ到る、是皆文明未開にして成人なく、年少の世分別なく

誤より起りし理

○文明の夷俗と開化の辨

今や都下の人民文明ふ謬り、開化ふ進まんとその美惡を撰まず、巧拙を極めず只人の耳目を驚ろかむとの惡習なるや、別文明の夷俗たるものみて、近く譬ふに練瓦石屋の華麗なるふ沈醉し、工夫の熟不熟を察せず、漫りに造作ふ及び以て小學校ふ、其半紙ふ代や祝宴を設け、児女をつどふの央その二階天井と共ふ落て、こもごも為ふ數十人の死傷出来うしふ哀むべきの甚しきものにて、見別此夏浪華なるいたち堀の話なり。又石炭油の猛烈なるふ注目せず、只ランプの奇玩なるふ誇り、酔毒の余り火を失し、其豫防の心なくして、剰へ他人の家財まで焼却せるの憂ひ来京より、少れかば或ら洋犬を牽ひて他人の座敷ふ昇降せ、婦人小児をして恐まどはるの類ひ、其源を考窮せず、只人の耳目を驚ろかんとすでに巨

害を引出さゝ所謂文明の夷俗とつゞ。紙中足
苦したゝ其妻妾として洋服を着せ手を携へて大道
を公然と無廉恥小徒歩あり各國ふすひ人ふ
先立むとの僻ふて我國の風習を忘もたるものす素抑
文明開化の民とふハ農耕商賣百工の業盛んに
て學問藝術ふ萬く萬民其職業を安んぞ西洋諸
國及ひ亞米利伽合衆國の知きをつふ此民のるを為
や造化の力を借らゞ學術をもつて勉めて是を助け

事を、又四海兄國委く明友の交りを結び、其法律
と家柄を尚まぶして、賢明の學術を貴ふ其人情風
俗國ふ依り同じからゞとい、ども大概虚飾少く
て廉恥の心ゆたに法令明白ふして刑罰極めて寛大
なる理不開化の民のすいしを皆ろくを学ひ更ふ時勢
に進まむと欲せゞ其自己の國をもつて第一とし、他國を
もつて夷狄禽獸なゞ名づけ已に勝れるの事ろり
といへども是を習ふことを知らゞ貴族ハ平民を蔑視し

人情に悖戻すること少れば、理學は講窮せざるに虚誕に迷ひ、知識乏しく器械粗ならして無益の人力を勞し、虚飾を貴び事情に遠く人情の交際を陽を温厚なれども陰に残忍なるもの多く、都て古来傳授の儀式體裁の外、切實なることを知らざるに抑文明の國學術人力をもつて、發明なる所の器械たるや蒸氣行動の水程陸路を輸將するをもつて器械の魁とし、其改変して妙工を極め海を渡る水

を汲み、山を堀り田地を耕し、金銀銅鐵を製練し、材木を鋸り、金物を造り、木具を製し、毛綿を紡績し、機を織り、紙を漉き、板を摺り、砂糖を煮る、麦粉を磨る等の工作これ蒸氣を用ひざるはなし。職人は唯機関乃運搬に心附るのみにして、更に手足を勞せざる一人の力をもつて、數百人の工をなす。其ひまどるは少くして、製作は美なり。其外傳信機、瓦斯燈、時辰鏢、風船、眼鏡、風雨鍼、避雷柱、紡綿機、織機の類、毛挙に遑

らば皆永年心思を勞し肢体を苦しめて成就せし
ものなれば、苟卑尖殘の別なく工夫を積み功を合湊し
て各盛大の文化を畢竟せしなり

○讀書ハ目的を定むるを辨

書ハ人の知恵を益するものなれども徒らに多く讀む
のみにて、知恵を益すること能はず然バ第一に豫じめ
其目的を相定むべく、何なりとも此事を研究せんと思
ひ目的を定めて然る後に書を讀むべし、吾心と書

の中の義と相合ふべし、第二に我々に應じたる定規を
立べく、斯くなれば學習の事秩序あるを得る、元来人の心に
物を入るに分量あり、若し其定まりたる分量より多く物
を入るるときは必ず外の物を推し出すべし、一科の學を底まで
なし我物とするときは何時にても用ひんと思ふときハ
用ひ得らるべし、然るに徒らに卷の書を擁し目録を
記し用ひんと欲する時引出す事をもつて足れりとなす
べし、必書中の意義に慣熟し實事に用ひん欲する

紙を吾心中より速に引出さゝゞしやうに見を我身ふ携へ可知り人若し家の内ふ義金を貯ふも生てけ懐中に一銭を持ざれバ用ふ應ぜざるべし故ふ學文の通用金を其身に帯び要用のとき常バこゝもとを交換をでし然ざるバ見を用ひんと欲するとき紙を不便なるこゝいとんかゝるなゝ故ぶし讀書のこゝを學問と思ひすゝを大なる不覺なり蓋し讀書學問を所以を智識を熟し徳行を修め仁善の心を益し有用の才を生し各自己の擇び志を遂げ人民の富福を増し國家の景象をよくなるに功事誤て詩文の技學に耽るこゝとなかれ

〇開化ふ進まざれバ恥辱を招く辯

我日本國ハ亞細亞洲の東ふ離れたる一孤島ふて慶長の末元和の初の比ハ外國と交りを結び交易の道盛んふて豪商ハ貨物をもつて航海ふ及ひ大ひに利を得富を保つもの多かりしが寛永十四年吉利支丹の土寇肥前天草に起り以来厳ふ其交りを断

無用の遊學
開明學術の
為ゑ敗走する図

實際
開明
學術

きしが嘉永年中亞米利加人渡来セより交易の道再度興り政風ハ人情と共ニ時ニ変し人民ニハ自主自立の権を與へらるも外ハ為國と並び立公法をもつて交際を篤ふし内ハ説教の大典を興さるこ神道七宗同心協力して頑民ニ三則の憲法を示し教へらるこ外侮を受けさる也國勢の振起せるこ往年と比較べらるべ支那人の如き廣大なる土地ニ生るこ甘んじて小國の民ニ驅役せらるこ甚陵辱を請るの甚しきを再化ニ進歩セ

さるより窘迫らるこ殷鑒と為さるこ抑支那ハ往古幸ひニ衆く聖人生るこ又理學者出て風俗規矩の能ひものを製造しを能ひ智識ある國と早に賞美せるこを聖人及ひ理學者ハ今日文明なる歐羅巴人と雖も稱せる所の智恵を窮めつを知る極を寶物ハ文字書籍等太古よりあるを以て殊ニ為國ニ顯讀書學問なる人を貴ふこと位ニ昇り要路の任ニあたる斯の如く早に再化しある人民なるべ世界中

の魁首たるべき人は必然の勢いなるに案の外こもこに反して自己の力を量らずして妄に外國人と兵を交へて大敗を取り遂に制を受け或は三維斯に移れり金六万万日備の人足を移り汚穢を西洋各國に流すや外交を以て數千年来同一の教訓同一の法律をもつて人民の心志挙動をして一様に束縛せしめよ

人民進まざれば遷らず。

數千年の大昔に異なる時勢に進歩せずして立止り

毫も開化の域に到らざるの謬誤なり

○教法の辨

凡そ教法の事たるや西洋の各國皆各種の崇拝所ありて政治人情風俗に關係せざるなし少しかるべき最も開化に遠き蝦夷の如き國といへども必ず崇拝神を祭らざる無し蓋し人間五常の道もまづ開けざる思ひを國といへども其觸るゝ所に感じて人力の及ぶべからざる所に神あるを知り日月雷電及び

山林水火等を祭り、或ハ神佛の像を作りこゝを祷る、
故ニ各國皆教法ハ太古より書理て、を始メハ皆一ツ
なりしかども、其傳ふる事の久しきに及ぶより、種々の法式を
なす、其内ニ力ある人出るに及ぶ、書を著し説をなし
てこゝを文飾し、終ハ一種の教法を開き、或ハ從ち
の教ハを看破しを別ニ一派をなすに、遂ニを種類乃
至るまで到るいうする野蛮なるも教法のなき
國土をいまだ聞ず、抑佛教の我國ニ來るや、

たゞ一法なるのみ、年久しく行われ傳教弘法親鸞
榮西日蓮等の輩種類多般ニ分派するに至り、今や
七宗ニ纏足るも同一ニ帰し、相互ニ親しム積年来
仇敵の思ひを散し、加ふるに神道をもつて、同心協
力大ひニ説教の大典を擧らも、三則の教憲を普く
天下に廣布せるも、頑愚の衆庶をして良民たらしわ
んと神導職を設ゆらば、抑三則の次第たるや第一
章の敬神愛國の旨を體すべし、夫天地開闢て

皇孫降臨より以来紹運まで百二十三代。積年
二千五百三十三年。連々綿々として為民綏撫を
給ふ。此本源諸神より出て。祖先以来其賜物を
受る。又人の此世ふるや。天神地祇の此身體を造り
此神魂を授ゆたまくる鴻恩より大ひなるはなし。此重き
神澤ふ浴し。上下安穏ふ斯く恭平の時代ふ安居を
恃。甚深の恩德を感謝し奉り敬神の誠実をつくし
神の恵蔭を朝夕ふ仰ぎ。まさ天照皇大御神の

四海万國を照臨し給ふ神恩より公なるふ外く。諸
神の衣食住の道を授ゆたまく恃恩より重き魅なるふ外
し。此天照皇大御神をもて之諸神の鎮座ましまの國土
ふ安住ましまべき國土を大切ふ愛護して保育の游恩
を報じ奉恃べく。愛國心ふ上ハ皇上より下士庶
人に至るまで各自其分相應の愛國ありて誘ふ何
るふ。そ。邦家の時為ふ為ましまべく愛國乃
實を怠もの少。第二章に天理人道を明にしべく

ふ天理と人道はもと一體なるものにて、人道を明か
されば自然天理に明なるべし。天理は則神理にて王
道とも同じ意なり。人道は五倫五常の道なり。
君臣の義、父子の親、夫婦の愛皆人道の大要なり。
第三章に皇上を奉戴し朝旨を遵奉せしむべし
ふ皇は神代よりの皇にて、開古一日の如く、天照皇
大御神の御血統を受嗣ぎたまひ、彼異邦毎年主
を易へるの國と世を同じくして語るべからず。此

類なき御神胤なれば戴き奉らんこそ
はなれ。朝旨は所謂大政官の御布告にて、人民を
綏撫し、法令を遵守しば恐々謹々て遵守すべき
事なり

開化の本初編終

明治七年二月官許
同年四月刻成

發行

東京 稲田佐兵衛
同 村上勘兵衛出店
名古屋 栗田東平
濱松 鬼頭清兵衛
大坂 落合平兵衛
大津 柳原喜七郎
京都 澤宗次郎
同 大谷仁兵衛
同 杉本甚助
同 辻本仁兵衛

佛田村